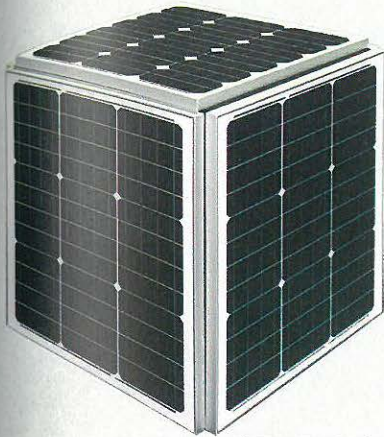


イーソル、小型の 独立型蓄電装置発売

組込みソフト開発のイーソル（東京都中野区、長谷川勝敏社長）

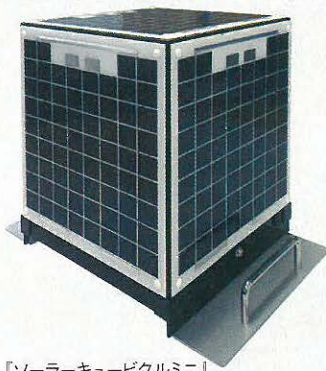
は2020年9月29日、太陽光パネルを搭載した独立型蓄電装置の新製品を発売した。従来品を小型にして持ち運びしやすくした。家庭向けなどに販売していく方針だ。

今回商品化された独立型蓄電装置は、26cm×26cm×30cmの立方体型で、底面を除く5面に出力7.6Wの太陽光パネルを1枚ずつ計5枚搭載。内部には蓄電容量22Ahの鉛蓄電池を内



「ソーラーキュービクル」。内部に備蓄品を保管できる

易に設置できる。非常用電源のほか、平時には人感センサ付き照明器具の電源などに利用できそうだ。



「ソーラーキュービクルミニ」。26×26×30cmと小さい

新製品は19年12月に先行発売された独立型蓄電装置の小型版。先行品とともに、同社と東京大学大学院特任教

授でドリー ムサイエン スホールディングスC EOの平藤 雅之氏が共同で開発した。

先行品は、

蔵し、パネルで発電した電力をため、USBポート2口とAC100Vコンセント1口から電力を供給する仕組みになっている。重さが約11kg。持ち運びが可能で設置工事は不要なため、集合住宅のベランダなどに容易に設置できる。非常用電源のほか、平時には人感センサ付き照明器具の電源などに利用できそうだ。

外形寸法が51・8cm×52・8cm×56・3cmで、底面を除く5面に出方32Wの太陽光パネルを1枚ずつ計5枚搭載。蓄電容量36Ahの鉛蓄電池を2個内蔵している。農業用センサなどIoT（モノのインターネット）機器の電源のほか、ボックス内に備蓄品を保管できるスペースがあるため、避難所や建設現場の非常用電源に利用できるといふ。

山田光信取締役センシングデバイス事業部長は、「蓄電池やパネル出力などをカスタマイズすることも可能

だ」としたうえで、「先行品の販売後、小型版の要望があったことなどから今回の新製

品を開発した」と経緯を話す。新製品は、名称が「ソーラーキュービク

ルミニ」と、定価は15万円。先行品は、「ソーラーキュービクル」、同32万円である。

